

17日 火曜

コリント I

8:1 次に、偶像にささげた肉についてですが、私たちはみな知識を持っているということなら、わかっています。しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。
8:2 人がもし、何かを知っていると思ったら、その人はまだ知らないなければならないほどのこととも知ってはいないのです。
8:3 しかし、人が神を愛するなら、その人は神に知られているのです。

8:4 そういうわけで、偶像にささげた肉を食べることについてですが、私たちは、世の偶像の神は実際にはないものであること、また、唯一の神以外には神は存在しないことを知っています。
8:5 なるほど、多くの神や、多くの主があるので、神々と呼ばれるものならば、天にも地にもあります、

8:6 私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。

8:7 しかし、すべての人にこの知識があるのではありません。ある人たちは、今まで偶像になじんで来たため偶像にささげた肉として食べ、それで彼らのそのように弱い良心が汚れるのです。

8:8 しかし、私たちを神に近づけるのは食物ではありません。食べなくても損にはならないし、食べても益にはなりません。

8:9 ただ、あなたがたのこの権利が、弱い人



Bible Reference
聖書の記述

たちのつまずきとならないよう、気をつけなさい。

8:10 知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのをだれかが見たら、それによって力を得て、その人の良心は弱いのに、偶像の神にささげた肉を食べるようなことにならないでどうか。

8:11 その弱い人は、あなたの知識によって、滅びることになるのです。キリストはその兄弟のためにも死んでくださったのです。

8:12 あなたがたはこのように兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を踏みにじるとき、キリストに対して罪を犯しているのです。

8:13 ですから、もし食物が私の兄弟をつまずかせるなら、私は今後いつさい肉を食べません。それは、私の兄弟につまずきを与えないためです。

コリントのような異教の街に住む者は常に偶像とのせめぎ合いになりました。食品もも偶像にささげられたものが口に入ることがあったので、そのことは是非が議論になっていたのでしょう。知識のある人は「偶像の神は実際にはないものである」と知っているので気にしないが、「信仰の弱い人」は何か偶像の影響があるのではないかと恐れて（または気持ち悪くて）食べないというのです。

しかしここで大切なことをパウロは冒頭に語ります。「知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建て」というのです。神学的に問題ないという知識があっても、それを押し通すのではなく、愛をもって信仰の弱い人を配慮し、その信仰に悪影響を与えないようにしてあげるのが、つまりつまずきを与えないようにすることが最も大切なことであるというのです。

クリスチャンであっても未だに偶像断ち切れない人も弱いと言えますが、偶像を断ち切った後も何か偶像を気にしてしまう人もいて、そういう人をパウロは「弱い人たち」と表現します。そのような人々の「つまずきとならないように、気をつけなさい。」とパウロは愛によって語っています。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

